



index

- | | |
|------------------|-----|
| ・【みどりのカーテン】 | P 1 |
| ・【保健衛生】新型インフルエンザ | P 2 |
| ・【トピックス】 | P 4 |



緑のカーテン

近年、地球温暖化が大きな環境問題として注目されていますが、当センターでも平成22年度から「福井県から見る地球温暖化の現象に関する調査研究」に取り組むことにしています。これに先がけて、BPR運動の一環として庁舎南側に、CO₂の削減や室温の低下に効果があるといわれているゴーヤによる緑のカーテンを設置しました。

直接的な効果は検証していませんが、窓から見える緑の葉は涼しさを感じます。また、収穫したゴーヤは、職員の健康づくりに役立っています。来年は、皆さんの職場でも取り組んでみてはいかがでしょうか。

新型インフルエンザって？



A 型のインフルエンザウイルスにはいろいろな型があり、ヒトだけでなく多くの哺乳類や鳥類が感染します。これまでにヒトの間で流行したのはソ連型 (H1N1)、香港型 (H3N2)、アジア型

(H2N2) の 3 種類だけでした。これ以外のウイルスがヒトの間で流行すると“新型”ということになります。

これまでではもっぱら鳥インフルエンザウイルス H5N1 が近々出現するのでは、と恐れられてきました。しかし、今年 4 月にメキシコで出現した“新型”はこの H5N1 ではなく、豚インフルエンザウイルスがヒトの間で流行するようになったものでした。これはソ連型と同じ H1N1 ですが、性質はソ連型とは大きく異なっています。

これまでのインフルエンザとどう違うの？

これまで毎年流行していたソ連型や香港型、B 型のインフルエンザは“季節性”のインフルエンザと呼びます。新型インフルエンザはこれまで流行したことがないので誰も免疫を持っていません。ですから、季節性インフルエンザにくらべて非常に感染が

拡がりやすいのです。

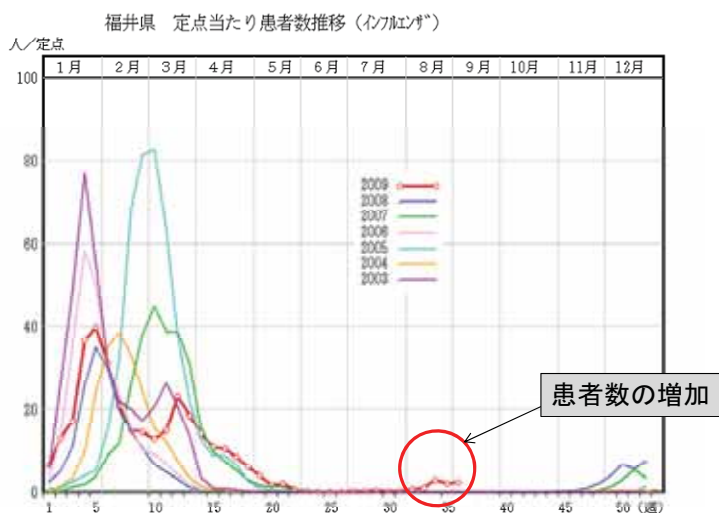
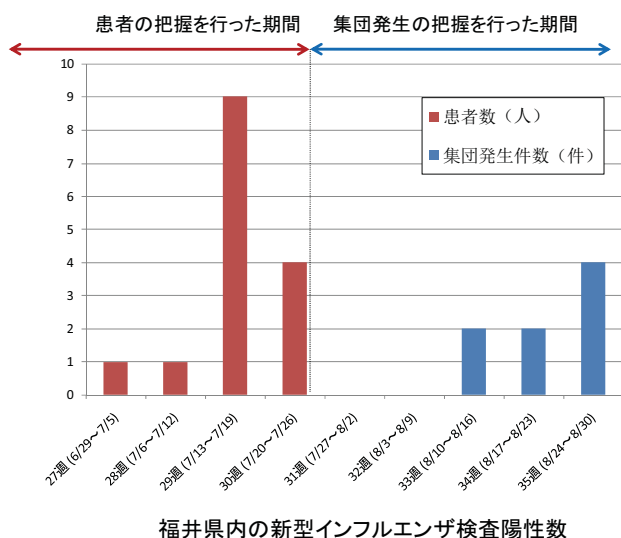
また、これまでのところ病原性は季節性とほぼ同じといわれていますが、患者が増えるにしたがって死亡者や重症者が報告されるようになってきました。これから感染が拡大すると、ウイルスが変化してより重い症状を起こすようになることも考えられます。

福井県の現状は？

5 月初めから 7 月 23 日までは、感染者をすばやく見つけ感染拡大を防止するために、インフルエンザが疑われるすべての患者さんの検査を行いました。県内 6 箇所の発熱外来から健康福祉センターを經由して搬入された検体を 24 時間体制で検査しました。その結果、7 月 5 日には福井県で初めて新型インフルエンザ感染者が確認され、23 日までに計 15 名が確認されました。

7 月 24 日から 8 月 26 日までは、集団で発生した場合や重症になった患者さんの検査を行いました。この間に、学校や保育園などで 8 件の新型インフルエンザの集団発生が確認されました。この期間には迅速診断キットで A(+) と診断された方はほとんど新型インフルエンザでした。

8 月 27 日以降は、個別の検査は重症例のみにして、広く県内の流行状況を調べています。新型かどうかの遺伝子検査だけでなく、ウイルスを増やしたり、遺伝子の配列を調べたりして詳しい性質も検査し、ウイルスが変化していないかどうか監視しています。



また、インフルエンザの患者数は決められた医療機関からの報告を集計しています。昨年までは夏にはほとんど患者がいませんでしたが、今年は8月中旬の第33週から患者数が増加しはじめました。このほとんどが新型インフルエンザであると考えられます。

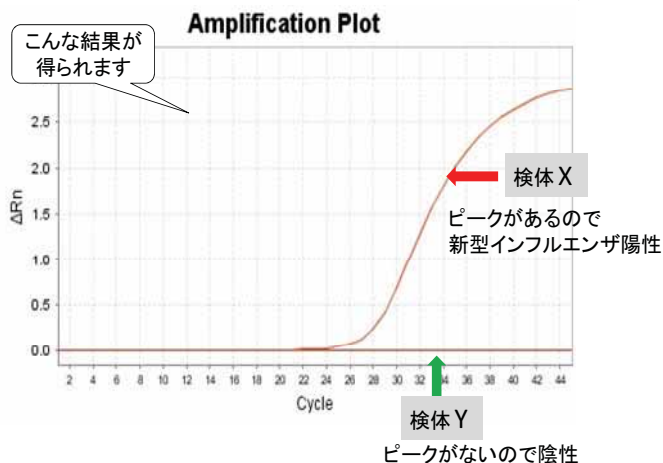
どんな検査をしているのでしょうか

医療機関で行う迅速診断検査では、インフルエンザに感染しているかどうかはわかりますが、新型かどうかはわかりません。それを調べるのは、当センターで行っている“遺伝子検査（リアルタイムPCR法）”です。

この検査では、患者さんの鼻や咽喉を拭った液の中にいるインフルエンザウイルスの遺伝子を取り出し、それを何万倍にも増やして検出します。約6時間で新型を含むどの型のインフルエンザウイルスに感染したのかがわかります。迅速診断検査では検出できない、発症初期などのごく少ない量のウイルスも検出できます。



リアルタイムPCR装置



タミフルが効かないウイルスもある！

インフルエンザの治療には、主にタミフルやリレンザという薬が用いられます。しかし2年前くらいから、タミフルが効きにくい“耐性ウイルス”が出現しています。

耐性かどうかはウイルスの遺伝子を詳しく調べることでわかります。これまでにを行った季節性インフルエンザの調査で、A ソ連型のウイルスは昨シーズンは全国的にほとんどが“耐性ウイルス”でした。新型インフルエンザでは、福井県ではこれまでは“耐性ウイルス”はみつかっていません。しかし、他県ではいくつか検出されているので、これが今後広がらないかどうか、当センターでも監視を続けていきます。

感染しない、させないために・・・

新型インフルエンザの予防法はこれまでのインフルエンザと同じです。くしゃみなどの飛沫を直接吸い込んだり、ウイルスが付着したものにふれた後に目、鼻、口などに触れることで感染が広がるので、うがい・手洗いを念入りに行いましょう。かかってしまったら、他人にうつさないよう“咳エチケット”を守り、マスクを着用して早めに医療機関を受診しましょう。

糖尿病やぜんそくなどの基礎疾患がある方や妊婦は重症化のおそれがあるので、特に気をつけてください。

これまでの季節性インフルエンザのワクチンは、新型インフルエンザには効果がないので、新型インフルエンザ用のワクチンを接種する必要があります。ただ、ワクチンは重い症状になるリスクを減らすことはできますが、感染自体を防ぐことはできないので、ワクチンを接種したからと言って油断は禁物です。



◆ 咳エチケット

- ① 咳やくしゃみなど、少しでも症状のある人は必ずマスクをしましょう。医療機関を受診する際も、必ずマスクをして受診しましょう。
- ② 咳やくしゃみの際には、ティッシュなどで鼻と口を押さえて、周りの人から顔をそむけましょう。
- ③ 使用後のティッシュはフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。

（文責：中村雅子）

「環境科学体験デー」と「食中毒予防体験講座」を開催（6月）

当センターでは、毎年6月の「環境月間」に、施設公開を行っています。

また、今年は新しい企画として、「環境科学体験デー」と「食中毒予防体験講座」を6月21日（日）に開催。体験コーナー、研究施設ツアー、紹介コーナーなどを設け、県民の皆様に環境科学のおもしろさや食中毒の予防について体験や学習をしていただきながら当センターの施設や研究内容について紹介し、たくさんの親子で賑わいました。



「親子で楽しむ」夏休み実験教室」を開催（8月）

当センターの研究員の知識やノウハウをもとに、次代を担う子供たちに、食品衛生や地球温暖化・環境保全の大切さについて体験や実験を通して楽しく学んでもらい、夏休み自由研究に役立ててもらうことを目的に、毎年夏休みに教室（午前と午後の2部構成）を開催しています。

今年は、8月2日（日）に開催。午後の部には、子供たちのエコ学習をレポートしているピントン（福井放送キャラクター）も飛び入り参加し、この日の子供たちの活動を見守ってくれてました。（この模様は8月4日同放送番組「おじゃまッテレ エコピントン」で放映されました。）



当センターでは、下記ホームページにて調査研究内容や所報などの刊行物を公表しています。

編集発行 福井県衛生環境研究センター 〒910-8551 福井市原目町 39-4
 電話：(0776)54-5630 FAX：(0776)54-6739 E-mail：eiken@pref.fukui.lg.jp
 ホームページ <http://www.erc.pref.fukui.jp/center/>
 みなさんのご意見、ご質問をお待ちしています。 (09.09.16170)

編集後記
 新型インフルエンザ感染拡大が
 まだまだ懸念され、我が家でも健
 康危機管理体制を改めて見直さ
 なければならない今日この頃です。